

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075300220
法人名	有限会社 ケアサービスちゅうりっぷ
事業所名	グループホーム 咲いた
所在地 (電話番号)	福岡県鞍手郡小竹町大字御徳権現堂115-3 (電話) 09496-6-4188

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	2008年9月30日	評価確定日	2008年10月30日

【情報提供票より】(平成20年9月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月18日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	6人, 非常勤 5人, 常勤換算 3.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート造り 1階建ての1階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	(光熱水費)34,500円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
または1日当たり 1,500円				

(4) 利用者の概要(9月19日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 80歳	最低	60歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中野病院 / ほわいと歯科 / ももち浜クリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム咲いたは、緑豊かな住宅街に位置し、隣接して同一法人が運営するデイサービスがある。敷地内の畑では、季節の野菜が近隣の方と共に栽培され食卓にも並ぶ。職員は、地域密着型サービスの主旨をふまえ、自治会や地域行事・運営推進会議で、地域と共に積極的に連携を図り、確かな存在感を示している。また、町の担当課と他グループホームと運営推進会議を開催するなど情報交換や交流を行い切磋琢磨している。管理者は「枠に捉われない介護を目指したい」と述べ、常に入居者の立場に立った介護、一人ひとりの違い、尊厳を尊重する介護を目指している。具体的には、職員が「自分の立場だったらどうだろうか」と話し合いを行い、実現に至った毎日の入浴実施を始め、開設当初より毎年実施している1泊旅行・遠方への外出など一人ひとりの希望や好みをふまえながら、楽しみごとの創出と実現に努めている。また、各居室には、職員から入居者一人ひとりに贈られた感謝状があり、「力仕事や洗濯物干しをありがとう」、「食事を残さず食べてくれてありがとう」といったもので、ここに、本ホームが目指す対等性や「その人らしい暮らし」の尊重、さらには管理者が述べる「枠に捉われない介護」の姿がある。今後は、更なる展開を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	カンファレンスにて、昨年の評価をもとに話し合いを行い、職員間で意見を出し合っている。改善点については、できることから具体的に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、研修の機会としてとらえ、カンファレンスにて昨年の評価をもとに話し合いを行い職員間で意見を出し合っている。自己評価は、職員の意見を聞きながら、管理者・ケアマネージャ・主任でまとめ、外部評価を活かす取り組みを行っている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。入居者代表・家族・地域住民(区長・老人会長)、町職員の参加が議事録より確認できる。活動状況や訪問診療などについて報告を行うと共に、虐待や身体拘束などのテーマについても、積極的に取り上げ、説明や情報公開の機会として主体的に活用している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議や面会時に、意見や要望などを言っていただけるように取り組んでいる。具体的には、面会時、家族に食事をしてもらい、意見を求めたり、家族の質問を受け、職員の資格証明書(写)を掲示するなど、積極的かつ柔軟に対応し、運営への反映に努めている。また、家族会を半年に1回開催している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入している。管理者は、地区の区長会議など町内会議に積極的に参加し、グループホームや認知症についての説明を行っている。地域の幼稚園児や小学生が、歌を歌いに訪れたり、中学生の福祉体験学習の受け入れを通しての交流がもたれている。盆踊りや敬老会などの地域行事に参加する一方で、地域の方の事業所の夏祭りへの参加もみられる。また、行事だけでなく、日常的にも畑づくりを教わったり、野菜をいただくなどの良好な関係を築いている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの主旨をふまえ「地域に貢献できるサービスの提供」と定めた法人の理念に加え、入居者一人ひとりの個性を尊重する旨を記した事業所独自の理念を、設立時に職員との話し合いにより作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームなどの事業所内に掲示すると共に、カンファレンスの際には、管理者が必ず朗読し「初心を忘れないよう」、職員間での意識づけを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。管理者は、地区の区長会議など町内会議に積極的に参加し、グループホームや認知症についての説明を行っている。地域の幼稚園児や小学生が、歌を歌いに訪れたり、中学生の福祉体験学習の受け入れを通しての交流がもたれている。盆踊りや敬老会等の地域行事に参加する一方で、地域の方の事業所の夏祭りへの参加もみられる。また、行事だけでなく、日常的にも畑づくりを教わったり、野菜をいただくなどの良好な関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、研修の機会としてとらえ、カンファレンスにて昨年の評価をもとに話し合いを行い、職員間で意見を出し合っている。改善点については、できることから具体的に取り組んでいる。自己評価は、職員の意見を聞きながら、管理者・ケアマネージャ・主任でまとめ、外部評価を活かす取り組みを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。入居者代表・家族・地域住民(区長・老人会長)、町職員の参加が、議事録より確認できる。活動状況や訪問診療などについて、報告を行うと共に虐待や身体拘束などのテーマについても、積極的に取り上げ、説明や情報公開の機会として主体的に活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	小竹町の福祉課とは、制度や疑問点などについて、気軽に相談できる関係を築いている。また、町福祉課及び町内のグループホームと小竹町運営推進会議を開催し、情報交換や交流を図っている。今後はネットワークにより、更に地域における認知症の理解を高めることを期待したい。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度利用者が1名いる。制度について、契約時に必ず説明すると共に運営推進会議で説明するなど、制度の紹介と周知に努めている。また、職員についても、学習する機会を設け理解を育てている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「咲いた便り」を毎月、写真同封で発送している。その内容は、「日常生活・健康状態・行事日程」などの項目別に、詳しい記述が確認でき、一人ひとりの暮らしぶりがわかりやすいものとなっている。金銭管理の確認については、面会時に行い、遠方の方については、出納帳の写しを送り、確認印をいただいている。緊急時や急な状態変化など、必要に応じて電話連絡を行っている。また、入居者の求めに応じて、手紙の代筆を行うなど柔軟に対応している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に、意見や要望などを言っていただけるように取り組んでいる。具体的には、面会時、家族に食事をしてもらい、意見を求めたり、家族の質問を受け、職員の資格証明書(写)を掲示するなど、積極的かつ柔軟に対応し、運営への反映に努めている。また、家族会を半年に1回開催している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の際には、その都度、説明を行っている。また、引き継ぎ期間(1ヶ月間)を設け、その間に申し送りの徹底を図り、入居者へのダメージを最小限にとどめるように努めている。		
1. 理念と共有					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用にあたって、性別や年齢などを理由に採用対象から外すことはない。管理者は、「外部研修の機会があれば、今後、積極的に活用したい」との意向を持っており、今後の取り組みに期待したい。職員のヒアリングから、上司に相談や提案がしやすい環境であることがうかがえた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	高齢者虐待や身体拘束など業務に即した内容で、具体的に学ぶ機会を設け、人権教育・啓発に取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	研修計画の作成には至っていないが、業務調整を行い、外部研修への参加や勉強会の実施に努めている。管理者は、職員の個別相談にも応じている。職員のヒアリングから、相談しやすい関係が築かれていることがうかがえた。		職員の能力や希望に応じて計画的な研修計画を立てることが望まれ、研修計画の作成とその実施を期待したい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	年に1回、町内6つのグループホームとの運営推進会議を開催し、情報交換や親睦を図っている。日常的にも、相互に訪問・見学を行い、一般職員のレベルでの情報交換や交流も行っている。また、管理者は、地域の障害者福祉施設との交流や情報交換も行い、ネットワーク構築に向けて取り組んでいる。今後はネットワークによる勉強会などケアやサービスの質を図る取り組みに期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	事前に本人と家族の見学を実施し、説明や相談に応じている。また、時間を区切っての段階的利用や体験入居(3日~1週間)を行い様子を見るなど徐々になじめるような配慮も行っている。入居前には、必ず管理者・ケアマネージャが自宅を訪問し、暮らしの場を確認すると共に、入居に際しては、本人が安心できるなじみの物の持参をすすめている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	家族のような関係を築くことに努めており、職員は、入居者の思いに寄りそいながら、編物や料理などの本人の得意なことや生活歴・暮らしの知恵、また、季節の行事での作法など多くのことを学び、入居者の生きがいのある暮らしを支えている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	日頃から傾聴に努め、本人の希望・意向を確認している。家族から生活歴などの情報提供を求めたり、職員の日頃の気づきなどをもとに、カンファレンス(1回/月)で話し合いを行っている。カンファレンスには、家族・本人の参加が見られる。アセスメントツールは、生活歴などの項目をふまえた新様式へ移行し、より本人本位での検討に努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	生活歴などの記載をふまえたアセスメントや、家族・ケアマネージャから収集した情報をもとに、カンファレンスにて、職員間で話し合いを行い、必要に応じて医師の意見を参考にしながら、本人本位の計画作成に努めている。本人が、カンファレンスに参加するなど入居者の意向を介護計画に反映できるように努めている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月に1回見直しを行っている。見直し以前に対応できない変化が生じた場合についても、臨機応変に、本人・家族・医師など関係者と話し合い、本人の状態に即した介護計画を作成している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	外部講師による音楽療法を1週間に1度実施している。開設当初より毎年県外にて温泉旅行を行い、大相撲九州場所・野球観戦など楽しみごとの創出と実現に努めている。ホームに隣接して、同法人が運営するデイサービスがあり、夏祭りの行事など合同開催し、多くの方々とのふれあい・交流を大切にしている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人の希望する、かかりつけ医を尊重すると共に、契約時に協力医療機関などについても説明を行い、納得が得られる受診支援に努めている。今後は、協力医が出席する家族会を開催する予定がある。また、歯科受診は毎週行われ、定期的にブラッシング指導を受けている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化対応や終末期ケアの指針を作成し、家族会や運営推進会議で説明するなど、家族・職員間で方針を共有している。現在も、家族や医師・職員間で話し合いを重ねながら、実際に取り組んでいる。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日常業務の中で、言葉づかいや記録物の取り扱いなど、プライバシーを尊重し取り組んでいる。職員間で気にかかる点が発生した場合は、ミーティングや会議で早期に改善している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	目安としての大まかな日課はあるが、基本的には、本人のその日の意向やペースを尊重し、希望や要望を日々の会話の中で聞き出し、希望にそった支援をしている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者の嗜好を反映した献立を作成し、準備や片づけについても、できる範囲での役割を担ってもらっている。食事中も、職員が同席し会話が弾んでいる。また、庭の畑で栽培した野菜を食材として利用するなど、収穫の楽しみを日常活動と密接に関連づけ支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴については、毎日午後から実施し、一人ひとり湯を交換している。時間についても、入居者の意向を尊重し、午後の希望する時間(タイミング)で入浴している。入居者同士で話し合い、一緒に入浴をゆっくり楽しんでいただくこともある。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	一人ひとりが生活歴や特技を活かし、料理や掃除・編物などの役割を担っている。掃除場所についても役割を分担し日課となっている。楽しみごとについては、毎年、温泉への宿泊旅行や大相撲九州場所・野球観戦などに出かけている。他にも、遠方への外出が多くあり、入居者の生きがいを尊重した取り組みがある。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日常的にその日の天候や入居者の意向に応じて、近隣の散歩に出かけると共に、月に1回は、希望をふまえ買物や花見などを計画的に実施し、季節感を感じていただけるように取り組んでいる。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は、施錠することの弊害を理解し、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。安全面の配慮についても見守りを実施している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回、避難・誘導などをふまえた消防防災訓練を実施している。消防署の立会いもみられる。地域との関係が良好な中、避難訓練など地域住民の参加の依頼をお願いしたい。災害対策においては、地域住民の協力が不可欠で、運営推進会議で議題として取り上げるなど参加・協力の意向を伝えることが大切である。		緊急時には、多数の入居者を少数の職員で避難誘導するのは難しい状況が考えられ、ホーム周辺の近隣の方など避難訓練に参加・協力を依頼し、支えていただくことが必要である。運営推進会議で議題として取り上げ、協力をお願いするなど徐々に取り組んでいただきたい。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	献立は、担当職員が作成している。食事の形態も形あるものでの提供を基本にしながら、個々の状態に合わせ、食べやすい形で提供している。摂取量についても、水分・食事共に記録し量の確保に努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	リビングには、対面式の流し台が配され、入居者は食事の準備の手伝いなどができる環境にある。リビングや廊下の至る所に入居者の作品や花を飾り、季節感を感じる工夫があり、居心地よく過ごせる空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各室には、好みの調度品や仏壇などが持ち込まれ、一人ひとりの意向を尊重した空間造りがなされている。クローゼット・ベッドは完備されている。使い慣れた家具と日用品に囲まれ、その人らしい暮らしの場となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			